

令和7年度 環境部組織目標

組織名	環境部	部長	環境部長 小泉 英康
組織の目的・方向性	市民、団体、事業者とのパートナーシップのもと、温室効果ガスの排出を大幅に削減し、脱炭素社会を構築するとともに、更なるごみの減量・資源化により循環型社会を推進します。 また、自然との共生のもとで、持続的発展が可能な社会を構築し、水辺空間や豊かに広がる田園、里山など、多様で美しい自然環境や良好な生活環境を将来世代に引き継いでいきます。		
(参考) 関連する総合計画における政策指標*	・市域から排出される温室効果ガスの削減量（平成 25 年度比） ・1 人 1 日当たりごみ総排出量 ・市内の陸域における生物多様性保全に資する地域の割合 ・新潟市の生活環境における大気・水・音などの状況が良好だと思ふ市民の割合		

※政策指標…目指す都市像の実現や、総合指標の目標達成を図るうえで、各分野において特に重視する指標。各分野の政策指標は市役所全体で共有し、組織横断で目標達成に向けて取り組みます。

環境部組織目標

環境部では、市域の温室効果ガス排出量を削減する「地球温暖化対策実行計画（地域推進版）」の推進に取り組むとともに、「国際湿地都市 NIIGATA」を内外に広く PR するため、ラムサール条約の湿地都市認証を活かしたプロモーションなどに取り組みます。

また、3R（リデュース・リユース・リサイクル）の優先順位に従い、廃棄物の減量と適正処理を進めるとともに、安定かつ効率的な処理体制を構築するほか、環境負荷の低減を図るため、良好な生活環境の保全を図っていきます。

この方針のもと、今年度は、次の5つの目標に重点的に取り組みます。

重点目標

- 1 地域脱炭素をけん引するため、市役所も CO2 を多量に排出する大規模な事業所のひとつとして、公共施設の ZEB 化促進や再エネ導入など、市の事務事業にかかる脱炭素化に率先して取り組みます。
- 2 「国際湿地都市 NIIGATA」を確立するため、ラムサール条約の湿地都市認証に基づく国際的な都市ブランド化及び地域における湿地の保全や賢明な利用の促進など、ラムサール条約都市としての取組みを推進します
- 3 廃棄物処理施設の更新・統合により、安定かつ効率的な処理体制を構築します。
- 4 きれいなまちづくりの推進のため、身近な地域の環境美化に取り組む活動を支援します。
- 5 安心・安全な市民生活に影響を与える環境負荷の低減を図るため、計画的な環境調査を継続的に実施し、環境の状況に応じた取組につなげることで良好な生活環境を確保するほか、新たな課題に迅速に対応できるよう情報収集を行います。

※重点目標における指標や取組状況は、各課組織目標をご覧ください。

評価

	重点目標の達成状況	目標数	5	達成数	3
取組結果	【重点目標 1】未達成の見込 ○ 目標達成困難な見込み（R8 年 7 月ごろ確定予定） R7 年度は気温上昇時期が早く（夏の開始が早く）、さらに高温期間も長く続いたこと。また学校の特別教室への空調導入が進んだことなどから、エネルギー使用量の増加が想定され、R7 目標達成は困難と推測。 【重点目標 2】達成 ○ R7.2 月に開設した HP「潟想い」を活用し、潟周辺のイベントや関係団体の取組を積極的に PR するとともに、プロモーション「潟（かた）のミカタ」や「潟（かた）フェス 2026」の開催など、情報発信を強化した結果、HP「潟のデジタル博物館」の年間アクセス数は、166,368 件と昨年比で 10.1%の増加と目標を達成した。 【重点目標 3】達成 ○ 新亀田清掃センターについては、令和 7 年 6 月議会の議決を経て、7 月 3 日に本契約を締結し、工事に着手した。また、新田清掃センターの破碎施設についても、集約に向けての整備を行った。 【重点目標 4】未達成 ○ コロナ禍により地域のボランティア清掃への参加人数は大幅に減少したが、その後は回復し、令和 4 年度以降は約 11 万人前後で推移している。今年度は前年度と同程度となり、広報紙や SNS などを利用してボランティア清掃活動や費用補助制度の周知を図ったが、目標値には届かなかった。 【重点目標 5】達成 ○ 年間計画に基づき、大気、水質及び騒音の環境調査を継続的に実施しました。 ○ また、結果の公表や、発生源に対する監視や指導により、市民の良好な生活環境が保全されるよう努めました。 ○ 新たな課題への取り組みとして、PFAS の水質検査を行い、現状の把握を行いました。				
今後の方向性	【重点目標 1】 ○ 温暖化対策実行計画（市役所率先実行版）の目標達成に向け、各部局での率先した取組を誘導するための方策について引き続き検討していきます。 【重点目標 2】 ○ 令和 8 年 11 月の世界湿地都市ネットワーク市長会議などを通じて、「国際湿地都市 NIIGATA」の認知向上を図るとともに、ラムサール条約都市推進プロジェクト・チームで策定したプロモーション戦略に基づき、統一的なプロモーションを展開しながら、引き続き「国際湿地都市 NIIGATA」のブランド化及び潟の魅力発信に取り組んでいきます。 【重点目標 3】 ○ 新亀田清掃センターについては、令和 12 年 4 月稼働に向けて、進めていく。また、新田清掃センター破碎施設についても、老朽化対策に取り組んでいく。 【重点目標 4】 ○ ごみの収集や活動費用の一部補助などにより、ボランティア清掃活動への支援を行うとともに、広報誌や SNS などを利用して活動や補助制度の周知を図り、新たな実施団体の掘り起こしに取り組むことで、地域における環境美化活動の活性化と参加促進を図る。 【重点目標 5】 ○ 計画的な環境調査を継続し、必要な対策につなげることで、良好な生活環境の保全を図ります。				